

飯豊冬合宿 2014/12/27-30

西俣尾根～頼母木山～門内小屋～梶川尾根

メンバー：谷嶋（CL）、上小牧（SL）、落合（食糧）、小濱、平川

昨年の全山縦走は非常に厳しいものだったが、今年もコレをやらないと年が越せない気がして未練がましくまた飯豊に来てしまった。

昨年は頼母木山で敗退し西俣尾根を下降したので、今年はその続きでルートを繋ぐ。

日程は予備日を含め最大で7日間、好条件になった場合を踏まえ弥平四郎に抜ける計画とした。

エスケープは、梶川尾根、クサイグラ尾根、大嵩尾根、天気の振幅が激しい飯豊なので気まぐれだ。

今年の冬は年末から寒波が凄まじい、根雪になってから予報を確認する日々が続いたが、日に日に増していく積雪に胸が躍るような心がすり減るような複雑な気分である。

冬の飯豊はその厳しさから冬山のセオリーから外れているは承知の事実だ、特に稜線は別次元で昨年身を持ってそれを経験した。それでもまた懲りずに来てしまうのだから山の魅力というか誘惑とは不思議なものである、人を寄せ付けけない圧倒的な自然を相手に自分たちはどこまで出来るのだろうか、今回は5名で挑んだ。

◆12/27（土）雪のち晴れ

梅花皮荘 7：40 西俣峰 13：18 1,170m幕営地 15：00

前夜はいつものように道の駅おぐに泊、早朝の国道は凍結した上に新雪が積もっていて攻めのドライビングをする谷嶋号は先を突っ走り車を反転しながら雪壁に激突していたらしい、落合号は後ろから手堅く安全運転で梅花皮荘に到着。

麓の雪は期待通り？昨年に比べてはるかに多い、梅花皮荘のオーナーに登山届を提出し出発。

川入荘までは除雪されているが、積雪は麓からいきなり膝上のラッセルでスタートとなる。

西俣尾根は急登・深雪なので取りつきからいきなり空荷でのラッセル、飯豊にしては雪の降り方が穏やかで助かったが降ったばかりの深雪は当然ながら労力を要する。

西俣峰まではそれなりのラッセルだったが、それ以降は尾根上でも風が抜けやすく雪がクラストしていて比較的歩きやすい。その分、風雪の中での行動は厳しいものになりそうだ。



西俣尾根は昨年の杵差岳・権内尾根に比べると雪は多いが歩きやすい印象を受けた、飯豊の雪尾根では取りつきやすいルートとされているがメンバーの意見も同感だった。

予定ではもう少し高度を稼ぎたかったが、西俣峰を超えて 1,170m 鞍部に雪庇でキレイに囲まれた鞍部を見つけそこを初日の幕営地とした。

夕方前から急速に天気が回復に向かう、夜は月が輝き流れ星までみえてここはほんとうに飯豊なのかと疑うくらいの星空となり翌日の晴天を期待してやまなかった。

◆12/28（日）晴れ時々霧

1,170m 幕営地 6：40 頼母木山 9：07 扇の地神 11：20 門内小屋 12：00 梶川峰ルート工作組
13：35 着 門内岳

起きてみると予報通り信じられないほど快晴の空、予定では門内小屋、または梅花皮小屋まで進む予定だが、翌日以降に迫ってくる低気圧や年末年始寒波の影響を考えると下手に突っ込むと予備日を使っても下山出来るか不確定だ。場合によっては梶川尾根をその日のうちに安全圏まで下降することも検討した。

昨年、頼母木小屋で脱出を試み小屋から 30～40m 程度の場所で風雪に飛ばされリングワンデリングし、小屋に戻るのに苦労した経験を踏まえるととても突っ込む気になれない。脱出には 3 日を要したからだ。

麓から程遠い御西小屋、飯豊本山小屋で大停滞を食ったら刑務所同然で脱獄してくるのは困難だ。

「行きはよいよい帰りは怖い」という言葉を常に頭の片隅に入れておかなければならない。

予報を確認したら翌日の午前中までは行動可能だという事が分かり、時間に余裕があったこともあり予め梶川尾根の上部をルート工作し、門内小屋まで素晴らしい稜線歩きを満喫した。

門内小屋で小屋開けをしていたら、ソロの登山者（下越山岳会の方）に出会う。我々のテント場より上部にベースを張っており北股岳を登り戻ってきたという。数日前に入ったというので下部のトレースは完全に消えていたが冬の飯豊にソロで入るという精神力に感服した。



頼母木山稜線

この日は大崋尾根から登る朝日、ブロッケン現象、日本海に沈む夕日、山形・新潟平野の夜景まで見えた、月に数回しか晴れないと言われている飯豊で、こんな景色の中稜線歩きが出来たことは大変貴重な経験だ。



杵差岳（左）の奥に日本海がみえる、とても 2,000m 以下の峰とは思えない懐の深さだ。

◆12/29（月）曇りのち雪のち雨

門内小屋 6：55 梶川峰 7：58 飯豊山荘 12：20

昨夜はまだ星が出ていたが、朝小屋を開けると灰色の世界が待っていた。

視界は 50m 強、予報通り風は弱いので行動は可能だが前日に打った赤旗が安心感を生んだ。

梶川尾根分岐を少し下った所で濃い霧に包まれる、トップを進む筆者は空と地面の平衡感覚を失う。

幸い赤旗を打っていたことでルートを見失うことは無かったが、目標物が無ければ当然倍以上の時間を要していただろう。

梶川峰下部は尾根沿いでも広い斜面が広がり雪崩には要警戒、夏道の臨場感は地形が変わっているので全く分からない。下部は視界が効いたのでまだよかったが分岐がトリッキーなので読図には力が入った。



梶川尾根の下部・樹林帯は踏み抜き地獄に苦労した。

予定ではこのまま下山する予定だったが、エスケープ（クサイグラ尾根）のルートワークで入る予定だったベテラン組が本日入山しており、無線をオープンにしていたらちょうど飯豊山荘付近でタイミングよく繋がり合流した。

ご馳走して頂けるということで皆様のご厚意により飯豊山荘でもう 1 泊することになった、3 日で下山は寂しかったのでもう 1 泊山中にいられることで幸せな気分になった。

昼過ぎから夜までメイン・ディッシュが三回くらい出てきて、飯豊だけに飯は豊かに盛ったろかと言わんばかりにたらふくご馳走になりました。。ちなみに下山したら一同体重が増えていました・・・。

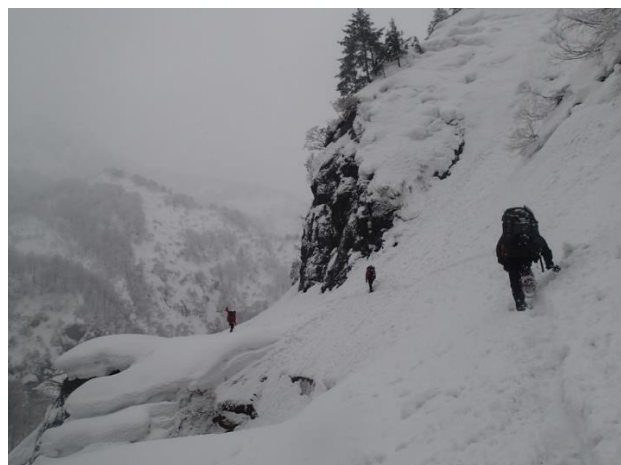
吉高神さん、阿部さん、小林さん、竹内さん、改めてご馳走様です、ありがとうございました！

◆12/30（火）雪のち曇（麓は雨）

飯豊山荘 7：20 梅花皮荘 9：25 小国町みよしやで昼食

林道沿いは斜面からの雪崩が多く要注意である、前日の雨でデブリが多く出ていた。

昨晩は雪から雨に変わりワカンに雪団子が大量にまとわりついて歩きづらい、exp-japan のワカンは湿雪の場合アルミの部分をビニールテープで補強すると有効なようだ。



飯豊山荘（左）での宴、林道はスラブ帯や沢沿いの急斜面が雪崩に要警戒。

◆食糧・炊事

食料は7日分＋予備食、荷物の軽量化・携行性重視で朝食は棒ラーメン、夕食は日清のカップヌードルごはん、カレーメシ、具はフリーズドライを中心に少量トッピング。一日のカロリーは2,000キロカロリーを目安にしたが、ツマミを各自たくさん持ってきたためそれ以上摂取していたと思われる。酒はワイルドターキー、梅酒を少量回し飲み、日本酒があると正月っぽく尚よかったかも。嗜好品は停滞も考え大量に携行した。

水作りはジェットボイルのヘリオス（3.0ℓ）を使用、プリムスの分離型バーナーと相性がいい。

ガス缶は5人(2泊3日) / プリムス 500T サイズ を1個消費。4泊5日でも2個で済む計算となる。

◆その他・装備対策

靴の凍結・凍傷予防の為、靴下はTNF社のネオブレン・ソックスを愛用している。

長期山行に適している、テントの中では内側の濡れた部分を裏返し腹の中で一晩乾かす、予備はウールをひとつ。欠点は足が臭いとテントの中で強烈な匂いが充満するので毎回誰がいちばん臭いか噂になる。。

ラッセルは雪が深いので、オーバークローブはロング丈がいい。湿雪なので濡れを嫌うならダイヤゴム社のダイローク（工業用手袋）を凝らしてもいい。装備は自分なりに工夫して飯豊スタイルで臨むのが面白い。

ワカンとスノーシューの選択は好みにもよるが、両方履いてみた筆者は飯豊はワカンの方が適していると思う。

スノーシューは急斜面でキックステップが出来ないのが辛い（特に雪壁での処理）、今回は風が弱く行動中すべてワカン・ストックで歩き通したが、荒天の場合は想像を絶する風雪で行動不能（停滞）となるので稜線ではアイゼン・ピッケルが基本。赤旗は120本程度持参して100本程使用した。

（記録：落合）

◆感想

。上小牧

今回は前半好天に恵まれたのですが、1月1日、2日の猛烈な冬型の予報があり、門内小屋までしか突っ込めませんでした。もし突っ込んでいたら下山は4日以降となり、3日、4日は無断欠勤となってしまったかもしれません。2週間くらい休みがないと全山縦走は難しいかもしれません。しかし、12月28日は快晴で、万手の星星、日の出、日の入り、朝日連峰、吾妻連峰や日本海の船まで見えました。これからも毎年年末年始は山に入ることになるのでしょう。

。落合

昨年の飯豊連峰全山縦走は大変高いハードルだと感じていましたが、今回は好天に恵まれたこともあり不可能な課題ではないと感じました。しかし、それは今回たまたま飯豊が少しでも微笑んでくれたから登らせてもらっただけのことです。足繁く通っていれば必ず達成出来る課題だと信じて、これからもみんなで切磋琢磨していきましょう。今回も大変実りある合宿でした。

。小濱

好天に恵まれ飯豊の美しい顔を拝むことになりましたが、昨年のようなつらく厳しい表情も、飯豊での合宿の醍醐味と感じております。長い時間をかけてさまざまな表情を楽しませてもらうことができる山ですね。これからもよろしくお願い致します。

。平川

はじめて飯豊に入り、私が今後年末年始お世話になる山はここだと思いました。好天では美しい東北の山々、日本海に浮かぶ船、雪に埋もれた新潟の市街地、目に見えるすべての物が美しく見えましたが、それは仮の姿で、次の日には全く違う、真っ白で上か下かもわからない世界が待っていました。今回は、憧れのびちよびちよになれなくて、少し残念な気持ちになりました。徐々に力をつけて花崗岩の飯豊を全山縦走したいと思います。